# 横田、ダイバーシティ・ビジルを開催

*Yokota Hosts Diversity Vigil*

June 29, 2020

By Staff Sgt. Juan Torres
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地で6月27日、第374空輸航空団の横田フレンドシップチャペルが主催した「ダイバーシティ・ビジル」（多様性について祈りを捧げる集会）に、チーム横田のメンバーが集った。

同集会では、人種的不平等で苦しみ、命を失った人々に対する連帯と同情を示すための祈りが冒頭に捧げられ、詩の朗読、そして8分46秒の黙祷が捧げられた。

「この集会は、横田コミュニティが集って互いをサポートし合い、今、世界中に存在するあらゆる人種的不平等、緊張、痛みにまつわる孤独感を共有するための特別な機会だ」と第374空輸航空団教会部長デール・E・マーロウ中佐は述べた。

このイベントは、チーム横田がバイアスや偏見を持たず、社会の団結と多様性を振り返る機会を設けることを目的に行われた。それは横田の牧師団が、世界の状況に対処するためだけでなく、他者の人生にプラスの影響を与えるためにコミュニティとして何ができるかについて、更なる議論とコミュニケーションを深める活動の伝統に基づいている。

「我々は互いを補うために多様性が必要であると認識していることから、空軍において多様性が重要な優先事項であることに間違いない。誰でも強みと特技を持っている。多様性によって、あらゆるバックグラウンドが任務に多くの力、経験、知恵をもたらし、それが我々をより強くする」とマーロウ中佐は述べた。

フレンドシップチャペル・チームは、今後、歴史の上でこの瞬間が始まりでも終わりでもないことを強調し、横田のコミュニティが真の平等への道に団結するための重要な日だと語った。

「チーム横田が皆仲間の一員であると感じられることを願っている。それを表す機会を今日ここに持つことで、互いに集まり、横田が個々をケアをするということ、それがとても強力だということを示すことができる」とマーロウ中佐は加えた。